

医療法人恵生会 南浜病院

2016-2017 Annual Report



ご挨拶

精神科救急病棟開設から1年が過ぎました。稼働率が順調に経過していることに大変喜びを感じ、本当に開設してよかったと思っております。

今は後藤院長をはじめ、職員からの精神科救急病棟を作りたいという熱意に答えようと建設を決断した当時に振り返り懐かしく思います。

どうせ作るなら県内で1番目の精神科救急施設を目標にして、さらに全国に自慢できる施設を作ろうと考えました。それにはどの程度建築費が発生するかが問題でした。まず、本院の設計をお願いした設計事務所に単独で60床を有する救急病棟の見積もりを頼みました。結果は十分返済出来る範囲内の金額でしたので、次に本院を建築した建築会社に見積もりを依頼しました。すると当初の予算を大幅に超過していました。余りの高額に一時ゴーサインを出す決断が鈍りましたが、本院の建築にあたり心配したことと同じではないか、と考えました。振り返って平成16年に本院を新築するにあたり全職員を講堂に集め「古い建物のまま消滅して行く地獄を見るか、新しい病院を建てて借金で地獄をみるか」どちらを選択するかを問うたところ、「同じ地獄なら新しい環境で地獄を見たい」ということで建築に踏み切りました。そして高額な借金をしたのですが、職員は新しい病院で生き生きと働き、これまで見たこともない新たな力を発揮しました。その結果として大きな借入金を計画通りに返済しております。この状況を踏まえ、精神科救急病棟の建築の借金は職員の力をもって立ち向かえば返済できると決断したのです。

精神科救急病棟を開設してからいろいろな方が訪れました。病棟は全個室で無料のテレビもついている、しかも明るい環境で機能的に作ってあると好評です。「これからの精神科病院の見本ですね」「自分も入院してみたい」というお褒めの言葉をいただきました。実際に運営してから入院患者に本館の病棟へ移動をお願いすると「ここがいい」と言われ、スタッフも頭を悩ましております。本館もまだ新しい方ですが、やはり差額の無い個室でテレビも見られ、プライバシーも守れるのがいいようです。

これでまずは精神科病院として理想に近い施設づくりが一段落したのですが、まだまだ次の施策を考えていかなければなりません。これから団塊の世代が高齢者になると共に医療費が右肩上がりに上昇して行きますので、国は医療費の多く占めている一般病院を対象に強力な医療費削減対策をとると予想されます。慢性期病棟を介護施設に移行することから始まり、厳重な基準に合った急性期医療を行う医療施設だけを残して病床数の大幅削減を行います。その次は必ず精神科病院ということになりますから近い将来、一般病院と同じ運命をたどるかもしれません。

これからは厚生労働省の目指す精神医療に合わせた経営が求められます。いろいろな試練が課せられ、資金投資も必要になります。生き残るにはいかに先を見て経営して行くかが重要で、なんとしても資金を蓄えておくことにかかっております。このように精神科病院の経営は苦難の途上にありますが、しかし、苦しい状況のなかであっても、国の政策や地域住民の要望に応え、安定した病院経営を行いたいと思っております。

平成29年10月

医療法人恵生会

理事長 鈴木好文



平成28年度年報発刊 にあたって

平成28年度の年報をお届けします。

今年度当院の大きな変化として精神科救急（スーパー救急）病棟の開設がありました。当院は新潟県精神科救急システムの圏域変更に伴い、平成26年度から北圏域の基幹病院の指定を受けています。すでに平成26年度からは急性期治療病棟をスーパー救急病棟の基準に合うべく運用し、病院全体としても、医師、看護師配置を救急病棟の基準をクリアするようシミュレーションしてきており、当初は急性期治療病棟を一部改装し、半分以上を個室化して平成27年度中に県内最初の精神科救急病棟としてスタートする予定でした。しかし最終的には理事長の大英断により、2階建60床の全国でも珍しい全室個室の病棟を新築することになりました。平成28年3月24日に竣工、新病棟は南病棟と命名されて4月1日から運営を開始しました。この病棟建設の実現で、基幹病院としての役割を名実共に担うことが可能になったと言えます。

その責任をさらに果たしていくため平成28年度当初には、「断らない精神医療」を目指すことを掲げました。約160日の救急当番日だけでなくそれ以外の夜間、休日、さらに平日の急な受診要請にもできるだけ断らない態勢を確保することを職員全体が心がけています。そのために、非常勤医師の当直は月に3日程度とし、平日の新患枠には医師2人体制で、措置入院等の受け入れについても圏域の月の最初の事例と夜間は当院で対応し、休日も公的病院と分担することになっています。

しかし、そうはいつでもキャパシティを超えて受けることは、却ってよい医療とはなりません。単科精神病院ですので、身体合併症については限界があります。救急当番日でも身体検索が必要なときはそれを優先することを言わざるを得ない場合があります。救急隊や総合病院とのやりとりの中でその必要性を理解してもらうとともに、当院としても誠実に総合病院や救急のニーズに沿うことが今以上に必要になります。普段から最大限の努力をして「南浜がそういうなら仕方ない」というレベルになることが「断らない医療」の目標です。

また、南病棟の開設により、平成18年に現在の本館を新築したときに残されていた1階北病棟を本館4階へ移動し、地域ニーズにより増加している認知症の入院を主として受け入れる病棟に機能転換しました。また急性期の患者を受けするためにはスムーズな転棟が必要で、そのため5年以上の長期入院者の20%を退院させることによる地域移行支援加算を平成28年度から受けるなど、急性期だけでなく重度かつ慢性の入院患者の退院促進など病棟全体の機能強化が進んでいます。当院の特長である多職種チームによる心理社会的治療にもいっそう力を入れていくことも含め、さまざまな治療ニーズに応じて行くことのできる病院として、ようやくスタートが切れたと思いますので、今後ともよろしくご支援、ご協力のほどをお願いします。

平成29年10月

医療法人恵生会 南浜病院

院長 後藤 雅博